

## ◆ 今週のコメント

- 腸チフスの報告が1例(20歳代, 男性)あります。推定感染地域は国外(中華人民共和国)で, 推定感染経路は経口となっています。  
感染症法に基づき届出の対象となった平成11年4月以降, 平成12年2例, 平成15年5例, 平成16年3例, 平成17年1例, 平成20年2例の報告があり, 本市の累積報告数は本例を含め14例となっています。
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例(30歳代, 男性)あります。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。
- インフルエンザの定点当たり報告数は11.81(791例)で, 第5週(2月11日～2月17日)をピークに3週連続減少しているものの, 依然として注意報レベルの「10」を上回っています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.88(77例)で, 前週(1.02, 42例)よりも増加しています。例年, 冬から夏前まで報告数が多い状態が続きますので, 今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成24年の後天性免疫不全症候群の年間報告数は, AIDS患者4例, HIV感染者5例の計9例でした。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 全数把握対象感染症の追加(重症熱性血小板減少症候群)について

平成25年2月22日付で, 厚生労働省から, 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令の一部を改正する政令等の施行について」の通知がありました。改正により, 平成25年3月4日から, 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)が四類感染症(全数把握感染症)に追加されました。届出様式は下記からダウンロードしてください。

○京都市保健福祉局保健医療課ホームページ「感染症発生動向調査事業に関する届出様式」  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 三類: 腸チフス 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	11.81	791
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.05	289
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.88	77
	③ 水痘	1.49	61
	④ 突発性発しん	0.24	10
	⑤ RSウイルス感染症	0.05	2
	⑤ 咽頭結膜熱	0.05	2
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

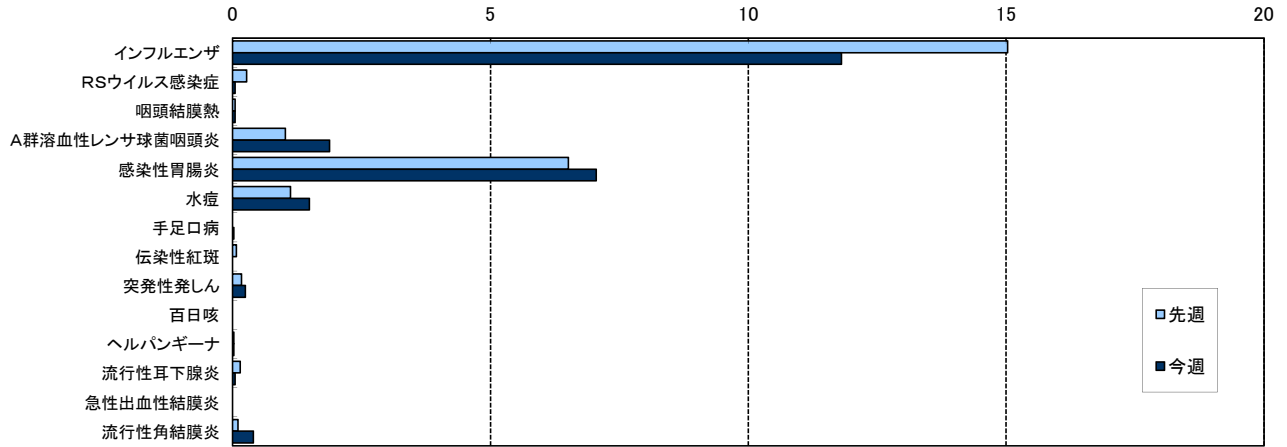
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

(注) 京都市のデータは, 平成25年2月28日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

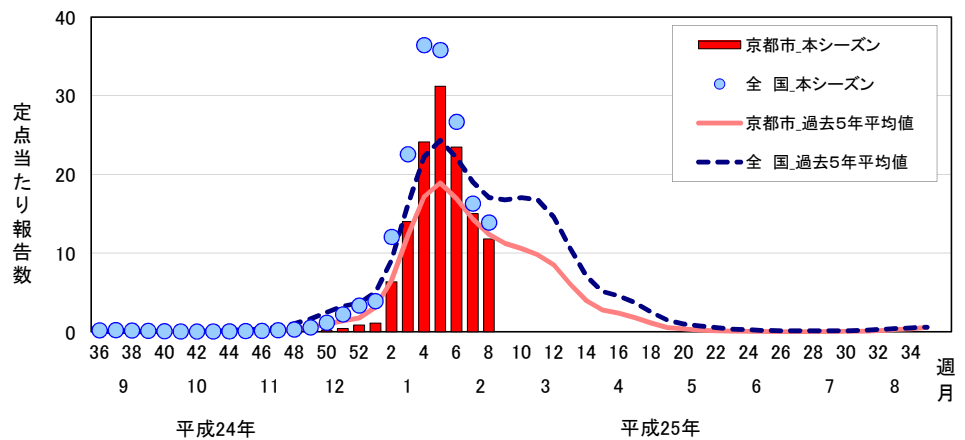
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第8週)と先週(第7週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

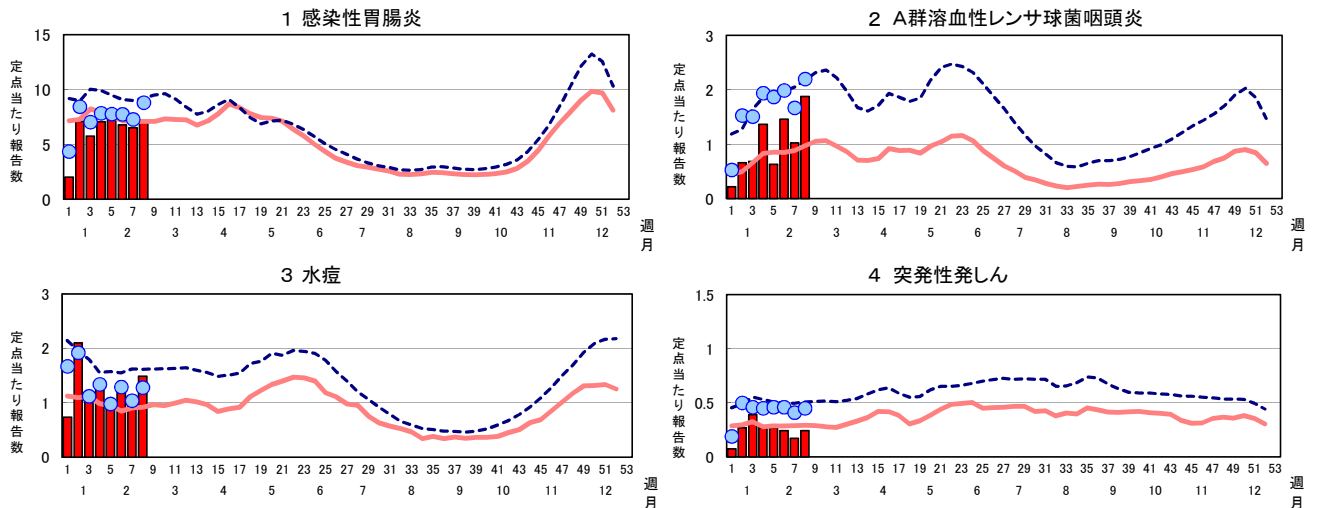
週	報告数(例)
第4週	1,616
第5週	2,092
第6週	1,572
第7週	1,007
第8週	791
累積報告数 (第36週以降)	8,629



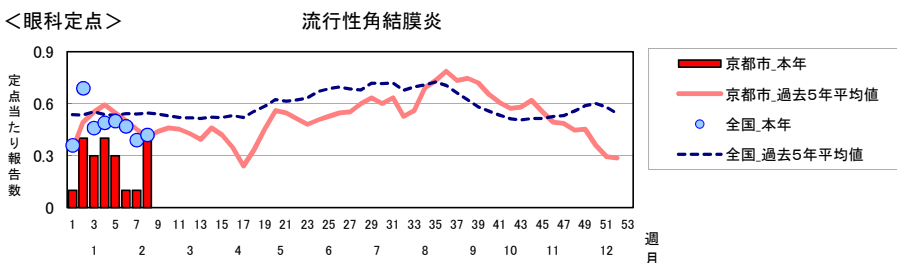
\*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第8週(2月18日～2月24日)トピックス: &lt;後天性免疫不全症候群&gt;

平成24年における後天性免疫不全症候群の年間報告数は、AIDS患者4例、HIV感染者5例の計9例でした。男性8例、女性1例で、推定感染地域は国内7例、不明2例です。

年齢階級別には、後天性免疫不全症候群全体では20歳代、40歳代及び60歳代 各2例、30歳代、50歳代及び70歳代 各1例となっています。AIDS患者では30歳代 1例、40歳代 1例、60歳代 1例、70歳代 1例で、HIV感染者は20歳代 2例、40歳代 1例、50歳代 1例、60歳代 1例です。

推定感染経路は、性行為感染が6例(異性間3例、同性間3例)、職務感染(血液暴露)が1例、不明が2例です。

年次別報告数の推移

報告年	総数	AIDS患者	HIV感染者	男	女
平成12年	6	3	3	5	1
平成13年	6	2	4	6	0
平成14年	9	4	5	8	1
平成15年	11	2	9	11	0
平成16年	21	2	19	18	3
平成17年	9	3	6	9	0
平成18年	25	8	17	23	2
平成19年	22	7	15	19	3
平成20年	21	6	15	18	3
平成21年	22	10	12	22	0
平成22年	17	6	11	17	0
平成23年	15	5	10	15	0
平成24年	9	4	5	8	1
総計	193	62	131	179	14

推定感染経路別 年次別報告数の推移

